

第12回「新宮ダムの堤体挙動等に関する技術検討会」 の審議結果について

令和2年1月21日（火）に大阪市内において、
第12回「新宮ダムの堤体挙動等に関する技術検討会」
を開催しました。審議の結果、検討会委員より以下のご意見を
いただきました。

1. 堤体挙動について

平成27年2月施工のダム天端橋梁を利用した暫定的な変位抑制工
については、その後の堤体挙動モニタリングの結果から、ゲート門
柱の変位進展に対する抑制効果を発揮しており、ゲートの操作性は
確保されていると考えられる。しかしながら、変位の進展は継続し
ており、また、ゲート門柱の基部の一部に新たな変状が確認されて
いる。よって、2. に示す補強対策工を実施するとともに、引き続
き状況を注視していく必要がある。

2. ゲート門柱基部の補強対策について

ひび割れ等の変状が発生しているゲート門柱基部を鋼材等で補強す
る安全対策工の基本設計は適切であり、それによりゲート門柱の安
全性は当面確保されると考えられる。

3. 恒久的な対策について

平成27年施工の変位抑制工および今回提案された補強対策工
は、当面のゲート門柱の安全性やゲートの操作性の確保のための暫
定的な対策である。従って、今後、モニタリングにより対策工の効
果を見極めつつ、必要に応じて恒久的な対策の検討を進める必要が
ある。

検討会の審議結果および資料については、池田総合管理所のホームペ
ージに掲載しています。

<http://www.water.go.jp/yoshino/ikeda/index.html>

令和2年2月3日



独立行政法人水資源機構 池田総合管理所

発表記者クラブ
四国中央記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 池田総合管理所

副所長 さかもと 阪元、 総務課長 つづき 都築

住 所：徳島県三好市池田町西山谷尻4235-1

電 話：0883(72)2050（代表）

新宮ダム

ダム堤体下流面

黄色矢印はゲートを示す
白色矢印はゲート門柱を示す



ダム堤体下流面(左岸側)



新宮ダムの補強対策工の概要

- ・新宮ダムでは、ゲート門柱の変位の進展に対して、平成27年に暫定的な変位抑制工を実施しましたが、その後も変位の進展が継続しており、また、ゲート門柱基部にひび割れ等の変状が発生してきていることから、補強対策工(鋼材等の挿入による門柱基部の補強)による安全対策を実施することとしました。
- ・今後、補強対策工の設計、施工を進めていきます。また、モニタリングによりその効果を見極めつつ、必要に応じて恒久的な対策の検討を進めていきます。

